次に，鳴りもの（大小の鼓）パートの口唱歌について学習しました。

## 鼓の口唱歌について

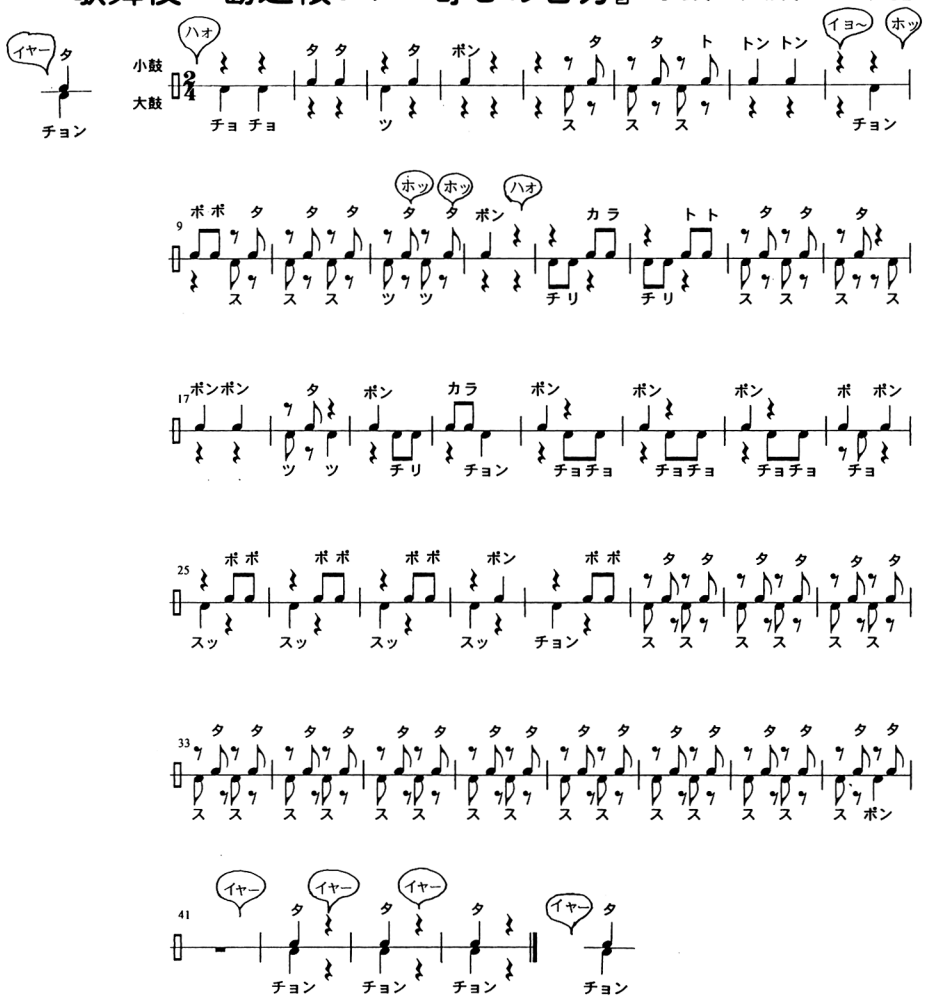
大鼓では「チョン・ツ・ドン」，小鼓では「チ・タ・プ・ポ」などを使いますが，能で使われるようにあまり厳密に打ちわけたりしません。

また，基本的に小鼓の手順（リズム）を唱えると，自動的に大鼓の打つタイミングが決まってきます。歌舞伎の囃子（はやし）で「チリカラ拍子」と呼ばれる「チリカラチリトト」の「チリ」や「ポンチョチョ」の「チョ」以外の「ス」や「ツ」は小鼓の休符にあたり，大鼓を打つ箇所です。手順や強弱はそれぞれの流儀によって多少違い，いわゆる決定版のようなものは存在しません。

授業では，下の譜の口唱歌を唱えながら机をたたく活動をしました。左手で大鼓パート，右手で小鼓パートを，かけ声も入れながらたたきました。

また，合間にかけられるかけ声は，奏者同士のテンポや間の取り方などを合わせるうえで，非常に重要な役割を果たすことも感じさせました。

**歌舞伎・勧進帳**より**『寄せの合方』**小鼓・大鼓パート譜




※　この口唱歌つきの譜は，邦楽教育振興会理事長・茅原芳男氏，小鼓奏者・望月太喜之丞氏の協力により作成しました。